

平成31年1月10日付・山陰中央新報

海士にサテライト施設

県立 大 離島の課題を調査、研究

19年度設置

県立大学(本部・浜田市原井町)が2019年度、海士町にサテライトオフィスを設置することが分かった。全学部の教員と学生が地域協力の拠点として使い、少子高齢化や物流、医療といった離島が抱える課題の克服を目指す。県立大学が隠岐郡内で出先機関を設置するのは初めて。

県内の課題に応える実践的な研究を進める学内組織として、19年4月に発足する「しまね地域研究センター」(仮称)の取り組みの一環。海士町内で建物を賃貸し、長期休暇期間を中心に教員と学生が泊まり込みで地域に入り、フィールドワークを展開する。

隠岐地方は本土以上に人口流出や交通、物流面での課題が深刻化している。今後は、浜田(総合政策学部)、出雲(看護栄養学部)、松江

(人間文化学部、短期大学部)の各キャンパスが有する専門性を生かし、「観光」

「地域活性化」「子育て支援」といったテーマ別の研究態勢を敷き、実際に隠岐4町

村で聞き取り調査や活性化策の社会実験を行う。県立大はすでに隠岐の島

町、知夫村と包括連携協定を結び、健康福祉事業を中心に協力関係にある。18年

度内に海士町や県立隠岐島前高校とも連携協定を締結し、地元自治体の支援を得て、4月から地域の課題解決に着手する。

隠岐郡内には大学施設として、島根大学(本部・松江)市西川津町)の生物資源科学部付属生物資源研究センター(海洋生物科学部門)が隠岐(隠岐臨海実験所)が隠岐の島町加茂にある。

(松本稔史、鎌田剛)

立地適正化素案示す

松江市

居住や都市
機能区域設定

土地利用の指針へ

松江市が9日、政府が掲げるコンパクトシティ構想の一環で、市街地の土地利用の指針となる立地適正

化計画の素案をまとめた。

人口密度を維持する「居住誘導区域」と、医療や商業といった生活サービス機能の集約を図る「都市機能誘導区域」を設定した。

同計画は、2014年8月施行の改正都市再生特別措置法に基づき、全国の市町村で策定が進む。松江市

は市全域の土地利用方針を定めた「都市マスタープラン」の市街地詳細版として位置付けている。

居住誘導区域は、市街地全体（3514軒）のうち、土砂災害警戒区域といった災害リスクの高い場所や工業団地などを除外した3017軒を指定。親との近居の支援など子育て世代の居住促進策を進めることで、15年に1軒当たり46人だった人口密度を27年時点で同44人に維持することを目標に掲げた。

一方、都市機能誘導区域は、居住誘導区域の一部と重複する444軒を指定。主要な行政機関が集まる殿町の周辺を範囲とする「中核」のほか、「JR乃木駅・県立大周辺」「島根大周辺」の3エリアに大別した。それぞれ、日用品を扱うドラッグストアやスーパーの充実、百貨店などの大規模集客施設、娯楽施設、専門学校などの誘導を進めるとした。

市は2月に住民向けの説明会を開き、3月の計画策定を目指す。（岩井彩佳）

島根県立大学長代行新設

19年度
組織改編

山下副学長が就任

島根県立大が11日、2019年度の組織改編で新たに「学長代行」を創設し、同大出雲キャンパス（出雲市西林木町）副学長の山下一也氏（62）が就任すると発表した。また、3キャンパスの副学長人事も明らかにした。

島根県立大が11日、2019年度の組織改編で新たに「学長代行」を創設し、同大出雲キャンパス（出雲市西林木町）副学長の山下一也氏（62）が就任すると発表した。また、3キャンパスの副学長人事も明らかにした。

た上で「職務を分担して効果的、効率的な大学運営をしたい」と説明した。

副学長人事は、浜田キャンパス（浜田市野原町）の井上厚史教授（60）＝日本思想史＝と、出雲キャンパスの石橋照子教授（60）＝精神看護学＝が新任、松江キャンパスと短期大学部は岸本強教授（62）＝子ども学＝を再任した。副学長はこれまで学内教授会が推薦していたが、今回は清原理事長が独自に選考した。（鎌田剛）

同大本部（浜田市野原町）であった会見で清原正義理

事長兼学長が明らかにした。任期はいずれも4月1日から2年間。

学長代行ポストは、同大第3期中期計画（2019～24年度）に盛り込む理事長権限の強化策。3キャンパス全体の運営に携わり、理事長を補佐する。清原理事長は自身のリーダーシップを強める狙いがあるとし

3 学部長を再任

島根県立大

島根県立大（本部・浜田市野原町）は17日、3月31日の任期満了に伴う次期学部長選考で、総合政策、看護栄養、人間文化の3学部長を再任すると発表した。

総合政策学部長は林秀司教授（55）Ⅱ人文地理学Ⅱ、看護栄養学部長は梶谷みゆき教授（60）Ⅱ老年看護学Ⅱ、人間文化学部長は岩田英作教授（55）Ⅱ日本近代文学Ⅱで、任期は4月1日から2年。

福岡県久留米市出身の林教授と出雲市出身の岩田教授が2期目、同市出身の梶谷教授は、改編前の看護学部長から数えて4期目となる。（鎌田剛）

歌や劇 夢のひとときを



本番に向けて歌や踊りの練習に励む学生たち

26日松江 県大生がキッズシアター

県立天松江キャンパス（松江市浜乃木7丁目）短期大学の保育学科1年生が、乳幼児に歌や人形劇を楽しんでもらう「キッズシアター」を26日、同校で開く。42人

の学生が1年間かけて演技の脚本や構成を手掛け、子どもたちに夢のひとときを届ける。
（岩垣梨花）

子ども目線で絵本の世界

2018年4月の短期大学部改編を機に、学生の主体性と実践力を養う場をつくらうと初めて企画。「保育内容演習Ⅰ・Ⅱ」授業の一環で、学生たちは18年4月から歌とダンス、クイズ、人形劇など6グループに分かれ、脚本作りや演技を磨いている。

「子どもの目線に立って内容を考えるのが大変だった」と話すのは、イベントの代表を務める錦織愛さん（19）。実習経験や幼児向け番組を参考に、口ずさめる歌を取り入れ、おもちゃの世界に飛び込む世界観を表現する。「絵本でしか見られない世界を実際に味わってほしい」とする。

練習会では、学生が「ねずみのよめいり」の劇や人形劇を披露し、改善点を確認した。指導に当たる人間文化学部保育教育学科の小山優子准教授（46）は「イベント準備を通じて、学生が責任感を持って行動できるようになった」と本番を楽しみにする。

午前10時と午後2時の2回行う。参加無料で、各回定員100人。同大ホームページで事前に申し込む。問い合わせは小山准教授、電話0855-2（20）02500。

島根町誌関連資料 2 千点 県立大生がデジタル化

地元史知り愛着深めて

録をデジタルデータにまとめ28日、地元の公民館などに寄贈した。今後、同町の地域研究に役立ててもらおう。(重田耕社)

松江

県立大短期大学部総合文化学科2年の6人が、松江市島根町の「島根町誌」の編さん時に収集された関連資料を整理し、目

デジタル化は人間文化学部地域文化学科の中野洋平講師(38)が、町誌関連資料を町民体育館に長年放置させていた現状を知ったのがきっかけ。資料の劣化を防



完成したデジタルデータを見て、作成時を振り返る中野洋平講師(後列左端)と学生たち

ぐとともに「学生たちに地域に目を向けてほしい」とゼミを開講。学生6人が賛同し、昨年4月から作業を始めた。

資料の年代は「島根町誌(資料編)」が編さんされた1981年以前の江戸時代から昭和初期で、町の運営や松江藩との関係などが記されている。

2156点あり、学生が1人当たり350点をスマートフォンで写真撮影し、中野講師の指導を受け、虫食いなどで状態が悪い箇所や字を解読した。半年以上かけて題名や作成年、日付などの情報をパソコンに入力し、冊子も併せて作った。

広沢里香さん(20)は「町民の皆さんが住んでいる地域の歴史を知るきっかけになれば」と話し、小倉彩香さん(20)は「島根町内の小中学校で利用してもらい、郷土愛を育んでくれればうれしい」と期待した。

28日に島根公民館(松江市島根町加賀)で贈呈式があり、学生が目録の冊子を

小川英二館長(72)に手渡した。小川館長は「データを参考に島根町の歴史への理解を深め、町の素晴らしさを再確認したい」と話した。

両県4大学でも 受け付け始まる

2次試験願書

国公立大2次試験の願書受け付けが28日、山陰両県4大学でも始まり、初日は島根大と島根県立大、鳥取大に前期9人、後期5人の出願があった。(24面参照)

島根大は前期683人の募集定員に対し、人間科学部3人、総合理工学部1人が出願。195人募集の後期は人間科学部2人、法文学部と生物資源科学部で各1人が出願を済ませた。

浜田、出雲、松江の3キャンパスで前後期合わせて264人を募集する島根県立大は、前期の看護栄養学部と人間文化学部には1人ずつあった。

鳥取大の募集定員は前期695人、後期228人で、工学部で前期3人、後期1人が出願した。前後期合わせて170人を募集する鳥取環境大は、初日の出願はなかった。

出願締め切りは2月6日。前期試験は2月25日から始まり、島根県立大短期大学部は2月9日から。後期試験は3月12日から始まる。

(森山郷雄)

島根県立大短大 志願倍率1.45倍減4倍

島根県立大短期大学部(松江市浜乃木7丁目)が30日、2019年度一般入試の志願状況を発表した。2学科の募集定員計40人に対して160人が出願し、倍率は前年度比1.45倍減の4.0倍。四年制学部新設に伴う定員減により倍率が跳ね上がった前年度をやや下回った。

保育学科(定員20人)には前年度比18人減の81人が出願し、倍率は0.9倍減の4.05倍。総合文化学科(同20人)の出願者は40人少ない79人で、倍率は2.0倍減の3.95倍となった。

試験は2月9日に始まる。合格発表は同22日。

(森山郷雄)